

## 5-2 教育改革のための情報通信技術活用に伴う知識と戦略的活用の普及

### 5-2-1 教育改革ICT戦略大会

#### <事業計画>

中央教育審議会の「質的転換答申」と大学改革実行プランを踏まえて、教育改革を進める上での基本的な課題、情報通信技術を活用した教育改善の政策、主体的学修を実現する学修システムの工夫、情報教育の推進普及と充実策、最新の情報通信技術の環境等の知識・理解を啓蒙・普及するため、文部科学省の後援を受けて全国の大学・短期大学を対象に「教育改革ICT戦略大会」を実施する。例えば、本協会がとりまとめた教育改善モデルを踏まえた主体的学修の工夫、教学マネジメントの工夫、ICTを活用した学修ポートフォリオの活用、教員の教育力を高める工夫等、教育のイノベーションにつながる課題をとりあげる。

#### <事業の実施結果>

「教育改革ICT戦略大会運営委員会」を継続設置し、「教育改革ICT戦略大会」を開催した。以下に、委員会及び大会の活動状況について報告する。

#### 教育改革ICT戦略大会運営委員会

平成25年4月19日、6月4日、平成26年3月17日に平均14名が出席し3回開催した。教育改革の基本的な課題や情報通信技術を活用した教育改善の政策、主体的学修を実現するための学修システムの工夫、最新の情報通信技術の環境等の知識・理解を啓蒙・普及するため、「教育改革ICT戦略大会」の企画・実施準備を行った。

#### (1) 開催計画の策定

- ① 大会のテーマを「大学教育の質的転換への行動」とし、平成29年度を目途とした「大学改革実行プラン」において、個々の大学での教育改革への行動が問われていることを踏まえて、大学改革を支援する国の施策と大学で取り組むべき視点、産業界から見た教育改革など紹介し、教育の質的転換に踏み出すために理解しておくべき基本的な考え方について認識する。その上で、教育改革のガバナンス強化、教員連携による学修の点検、学修ポートフォリオシステムに関する実践事例、教育改善モデル提案を通じて、教学改革のための施策と課題について理解を深め、大学が着実に改革行動に入れることを目指すことにした。
- ② アクティブ・ラーニングのためのPBL（課題探求型）学修、ピア・サポートを活用した新しい学修支援の仕組み、地域・社会と協働した実践型授業、教育・研究におけるセキュリティ対策について個別に議論することにし、83頁の通り開催プログラムを策定した。
- ③ 以上の他に、ICTを活用した教育や支援環境に関する発表を行うとともに、大学・企業共同によるICT導入事例の紹介をポスターセッション形式で実施することにした。

#### (2) 開催結果

平成25年9月3日から5日の3日間、東京市ヶ谷の私学会館を会場に、172大学、17短期大学、賛助会員16社が参加し、発表者を含めて406名が参加した。

- ① 安倍内閣が掲げる教育再生実行会議等において、平成29年度を目途とした大学改

# 平成25年度 教育改革ICT戦略大会 プログラム

## 9月3日 全体会

会場	時間	内容
3階 富士	9:50	開会挨拶 公益社団法人、私立大学情報教育協会 会長 向殿 政男 氏
	10:00	【大学改革を支援する国の施策】 学生の主体的学びの確立に向けた大学教育の質的転換～大学改革実行プランを踏まえて～ 社会の変革を担う人材育成、知的基盤の形成やイノベーションの創出など、我が国の発展に果たすべき大学の役割は極めて大きく、かつ多様である。現下では大学改革は待たない状況で実行が求められており、これを行動あるものとするには、5年計画による国の政策協力が必須である。教育の質的転換、グローバル化への対応、地域再生への対応、大学のガバナンス強化を目的とした国の支援策を確立し、教育改革に結び付ける。 文部科学省 高等教育局 高等教育企画課 課長 山中 聡明 氏
	10:40	【産業界からみた教育改革】 日本再生に向けた教育イノベーション 卒業生が社会で活躍する課題に常に答えはなく、自ら答えを見出す教育に大学が対応しているか否か、社会の評価も低い。これまでの知識伝達型の教育だけでは大学の存在価値はないと言えよう。自分で答えを見つけていく力を養うには授業科目と専門教育との統合が重要であり、総合力を培う大学教育の改革が求められている。未来を背負う人材に必要な教育をいかに組織として提供すべきか、日本再生に求められる人材強化の側面から大学教育の在り方について基本的な視点を共有したい。 株式会社ニチレイ 相談役、中央教育審議会大学分科会委員 浦野 光人 氏
	11:20	【教育改革のガバナンス強化】 学費主権のカリキュラム改革 学士課程教育を実現するためには、授業科目間の連携を教員との話し合いの中で構築する必要があるが、整理、統合は難しいのが現状である。学位授与方針に合ったプログラムとの関係の中で、類似科目の別賦や問題発見、解決能力を育成するカリキュラム改革は、学長のカリキュラム委員が強く要請されている。理事長と教務長の連携をリンクさせて、その課題に向けて取り組んでいる実例を紹介し、カリキュラム改革の戦略を提案したい。 株式会社ニチレイ 相談役、中央教育審議会大学分科会委員 浦野 光人 氏
	11:55	【教員連携による学修の点検】 教養教育の質保証を目指した到達度測定の組織的取り組み 学士課程教育で学位を授与するには、教養科目と専門科目の統合または連携が必要であり、教員間で共通理解を形成して多面的な観点から学修に必要な能力を育む工夫が求められる。その実例として、時代や社会に対する共通課題を問い、主体的な探究や学修推進の取組を紹介し、ラーニングアウトカムとの達成度測定の工夫を通じて、教員間の連携の重要性を認識したい。 創価大学 副学長、学士課程教育機構長 寺西 宏友 氏
	12:30	休憩
	13:30	【学生の声を反映した学修改革】 学生の声を反映した学びのイノベーション 教育内容の改革を図るために、教員の意見ではなく学生からの意見を本能的に取り上げて専門教育、共通教育、ゼミ、初年度教育、情報教育などの教育の在り方について本格的な見直しを行い、教育改革に立ち向かっていく取組を紹介し、学生の声をフィードバックして大学・短期大学教育の効果を検証し、教員一人ひとりの理解と協力をとどつけようとする取組について、興味と課題を共有したい。 武庫川女子大学 法人室次長 浦野 豊 氏
	14:10	【質保証のシステム】 学修ポートフォリオを活用した教育の取り組み 学びの振り返りを通じて、自主的に学修に向き合えるようになるとともに、学修成果の達成度を明確化させ、カリキュラムの見直しまで働きかける学修ポートフォリオシステムの導入の意義と活用方法について実践例を踏まえ紹介し、質保証システムに求められる学修ポートフォリオの機能と課題を整理する。 帝塚山大学 学長 岩井 洋 氏 大阪府立大学 高等教育推進機構 教授 星野 聡孝 氏
	16:00	休憩
	16:15	【教育改善モデルの提案】 未知の時代を切り拓く人材育成を考える 生涯にわたって未知の時代を切り拓いていく「気風」「考え抜く力」「思いやる力」という人材の育成を目指して、学生一人ひとりが自分の考えをもって地域・社会をはじめ、地球的な市民社会の形成に自主的に関わられるようにするため、5年先の教育改善モデルの在り方を提示し、大学として組織的に取り組むべき改革課題について議論する。 公益社団法人私立大学情報教育協会 事務局長 井端 正臣 氏 本協会経済学教育FD/ICT活用研究会委員 法政大学経営学部 教授 林 直樹 氏
	17:00	終了

## 9月4日 テーマ別自由討議

10:00	【分科会A】アクティブラーニングのためのPBL(課題探求型)学修 自分で考え抜く力が弱いという教育課題に立ち向かうため、地域や企業の現場力を授業に取り入れ、現場での生きたテーマや問題を発見・解決する事例と、講義形式の授業とPBL授業を取った理論的なプロジェクト学修を通じて、失敗を繰り返して、学修成果のコンテント等の事例を通じて、具体的に学修でできるアクティブラーニングの可能性を探る。 課題提起: 同志社大学 大久保雅史 氏 (理「学部教授」) 大手前大学 芦原 直哉 氏 (現代社会学部教授)	会場 5階 大雲
10:00	【分科会B】ピア・サポートを活用した新しい学修支援の仕組み 学生自らの問題意識で授業や授業以外の場所でも学修が新入生等に対して学びを支援するピア・サポートの取組が重視されている。ピア・サポートは、授業の時間外に限定している例や授業そのものをサポートする例など多岐にわたっており、学びの機会を提供する中で自らも学びを進化させることができるなど、大学の新しい学修支援システムとして重要である。二つの大学の事例を通じて、学生自らが学修を支援するための効果的な仕組みを探るため、御座談会や課題について整理する。 課題提起: 法政大学 木原 章 氏 (学習センター長) 立命館大学 沖 裕貞 氏 (教育開発推進機構教授)	5階 種彦西
12:30	大学・企業によるICT導入・活用事例(ポスターセッション)の概要紹介	各会場
12:45	休憩	
14:00	【分科会C】地域・社会と協働した実践型授業 地域とつながるプロジェクトを通じて学部横断的な学びを実現し、地域との関わりを深めることで知識や実践力を高める実践型授業の事例と、学生の主体的能力向上のために、実践型授業を行う場としてPBL型学生プロジェクトの実施事例を踏まえ、学生に必要とされる能力の醸成の取組を共有し、プロジェクトで、教育プログラムの見直しにつなげていく方法を提案する。 課題提起: 広島修道大学 相馬 伸一 氏 (副学長、人文学部教授) 摂南大学 浅野 英一 氏 (外国語学部教授)	5階 大雲
14:00	【分科会D】教育・研究におけるセキュリティ対策 大学が日本再生の源であるとして政府で認識されているように、知と集積・創造する大学の教育・研究活動から派生する情報資産の管理が大きな課題となっている。情報資産の流出・窃取が既に大学でも発生しており、情報セキュリティの管理に対する危機意識を大学全体の問題として共有する必要がある。また、災害から情報資産を守り、大学業務の継続性を確保するための災害時での復旧対策等について理解を深めるために、大学の連携及びクラウド環境の中で情報資産の二重化対策等、考えるべき課題について議論を深める。 課題提起: 独立行政法人 情報処理推進機構 (IPA) 本協会 情報セキュリティ研究会 運営委員会委員長 金子 千里 氏 正樹 氏	5階 種彦西
16:45	情報交流会 ※参加費 別途4,000円が必要です。	6階 伊吹
12:30	大学・企業によるICT導入・活用事例(ポスターセッション)	5階 廊下

## 9月5日 大会発表(78件)

革実行プランとして、学生を鍛え上げる教育の質的転換への対応、大学ガバナンスの強化、グローバル化への対応、社会人の学び直しなどに政府として法令などの整備、補助金による支援が確認された。

- ② 経済からの意見として、授業科目の役割・位置付けを体系化し、組織的な中で明確化していく必要がある。最善解はあっても正解はないため知識偏重教育に陥ることなく、知識を得るプロセスを身に付けさせる教育が急がれる。また、企業側の採用基準がコミュニケーション能力一辺倒となっているので、大学での学修成果を評価するよう替えていくべきである。そのために大学も外部評価を受け入れ、教育の質保証に責任を持つ必要があることが提案された。
- ③ 学長主導のカリキュラム改革の取り組みにおいて、授業科目の統廃合は教員の占有感が障害になる。一度にガバナンスの強化を進めるのではなく、ルーチン業務は教授会の権限として扱い、改革や新規事業は学長主導という棲み分けも必要であることが確認できた。
- ④ 質保証のシステムとしての学修ポートフォリオ導入の目的は、学生にとっては目標設定と振り返りのツール、教員にとっては授業効果の形成的評価のツール、大学にとっては教育プログラム有効性の評価ツールであること。また、導入の課題としては、目的・必要性を明確化し、教職員、学生へのコンセンサスの徹底、普及促進の工夫、人的・財政的支援が必要であることが確認できた。
- ⑤ アクティブ・ラーニングのためのPBL（課題探求型）学修は、コンピテンシーの設定、能力別・授業科目別ルーブリックの体系化、eポートフォリオ導入などを通じて、学生の能力伸張度を総合的に評価する仕組みが必要なこと、課題レポート、発表、ディスカッション、論述試験などが効果的であり、教育ボランティアによる外部評価の工夫が必要であることが確認された。
- ⑥ ピア・サポートを活用した新しい学修支援の仕組みは、学修支援、授業改善、ピア・サポーター自身の成長という三つの機能があり、サポーターによる支援は学生の反応がよく、教育効果として有効であることが強調された。
- ⑦ 地域・社会と協働した実践型授業は、地域の再生に関わる問題発見型・プロジェクト体験型のPBLにより、学生の主体性の向上、コミュニケーション能力の向上、自己アイデンティティの形成につながることで、課題は教員の教育力の育成、プロジェクトに参加しない学生への働きかけであることが確認できた。
- ⑧ 教育・研究におけるセキュリティ対策は、標的型サーバー攻撃は現行の技術では対策に限界があるため、入口、出口、内部、全体の管理統制による対策が必要であること。今後の課題は、ネットワークの利便性と危険性の周知、スマートフォン等利用のガイドライン作成、セキュリティー・ポリシーの明確化、セキュリティ対策に関する大学間情報共有であることが確認された。

なお、大会の開始概要の詳細は、巻末の事業報告の附属明細書【2-9】を参照されたい。